馬術・東都学生

標準障害で武井優勝、柳原2位

団体総合は3位

▲ 新人障害の菅谷泰一（経済1）

東都学生馬術大会が4月18日から20日まで、JRA馬事公苑で催され、団体総合で連覇を目指した専大だったが、3位に終わった。

初日は悪天候の中、女子障害飛越団体で2位。2日目以降も標準障害で武井慎弥主将（経済4・奈良高）が優勝、柳原大徳（商3・各務原西高）が2位、団体で2位。複合競技でも柳原が3位、靏林舞（商2・市立前橋高）が5位となったが、首位との差は大きく、優勝には届かなかった。

なお、18日に行われた東都トーナメントは1回戦で中央大に敗れた。（久田　照喬・商2＝写真も）

バドミントン・世界学生

井上、田村が日本代表で貢献

世界学生バドミントン選手権（5月5～10日、ポルトガル・ブラガ）に井上春奈（商3・埼玉栄高）、田村千秋（文2・昭和学園高）が日本選手団の一員として出場。個人女子シングルスで田村がベスト8進出をはたした。

井上は3回戦敗退。ペアを組んで臨んだダブルスも3回戦で敗れた。

また、井上は団体予選リーグ、マカオ戦のシングルスに出場し、セットカウント2―0の快勝で勝利に貢献した。なお、日本代表は決勝トーナメント1回戦で敗れた。

関東大学春季リーグ戦

4月19日から29日まで日体大米本記念体育館ほかで行われ、女子1部で2勝3敗の5位に終わった。（庄司　亮介・文2）

アイスホッケー・関東大学

精神面の改革が課題

Aグループ10位に終わる

秩父宮杯関東大学アイスホッケー選手権（トーナメント戦）が4月5日から29日まで、西東京市のダイドードリンコアイスアリーナで行われ、専大はトップグループであるAグループの10位で大会を終えた。

日体大との初戦を落とし、9～12位決定戦に回った。1回戦で秋季2部優勝の慶応大に苦戦の末、ペナルティーショットで勝利したものの、青学大に2―3で敗れ、春季の全試合を終えた。

富山綾主将（経済4・白樺学園高）は「今大会は格下としかやっていないが、結果を残せなかった。理由は精神面。真剣にホッケーができていなかった。まず、気持ちや意識の面で変わらないとどうしようもない。秋のリーグ戦には万全の状態で望みたい」と話し、腰塚靖監督も同様にメンタル面の強化を課題に挙げた。（新海　城生・経済4）

東都大学野球〈2部〉

▶ 好投する長谷川俊（商4）

東都大学野球春季リーグ戦（2部）は現在、4大学と対戦を終えて、4勝6敗1分の勝ち点1でリーグ4位と不本意な位置にいる。

國學院大に連勝し、順調な滑り出しだったが、その後の国士舘大戦では連敗、中央大戦、東農大戦ではともに1勝を挙げるものの、勝ち点は奪えず、歯がゆい結果となっている。「チャンスは作れているが、あと1本がなかなか出ない」と長谷高成泰監督は語る。秋季リーグにつなげるためにも、最後はなんとしても勝利で終えてほしいところだ。（久田）

アメフト・川崎シリーズ

武蔵工大に完勝も関東学院に敗れる

グリーンマシーン

▲ ディフェンスを振り切り、TDを決める水田❶

アメリカンフットボールの春季オープン戦「川崎シリーズ」が4月20日から、川崎球場でスタートした。専大グリーンマシーン（以下GM）は初戦で武蔵工大に20―3で勝利したものの、第2戦で関東学院大に12―35で敗れた。

1年次生も出場し、秋のリーグ戦へ弾みをつけたいGM。2戦連続でタッチダウンを奪ったランニングバック・水田一希（経済2・崇徳高）をはじめ、各選手が軽快な動きを見せた。

今年、監督に復帰した平野恭雄監督は「まずはメンタル面を強化し、戦う集団にしたい。まだチームを把握しきれてないが、ここ数年低迷しているので、勝つ意識を植え付け、選手の意識改革を促したい。技術面ではスピードを強化し、昨年苦しんだ得点力不足を解消したい。選手が率先して変われば、リーグ戦で上位を狙えるかもしれない」と語った。（新海＝写真も）

バスケットボール・京王電鉄杯

関東大学選手権へ手応え

「ディフェンス」は改善

京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバルが4月26日から5月6日まで、トヨタ府中スポーツセンターで行われ、専大は最終戦で日大に69―65で勝利し、2勝7敗の9位で大会を終えた。中原雄監督は「攻めはほとんど練習していなかったのでこれから。守りは試合をこなしながら改善できている。最終戦はしっかり守れたことで勝てた」と話し、堤啓士朗主将（経営4・福岡大濠高）は「3月からやってきたことを試す大会だった。結果が出始め、次につながっていると思う」と手応えを語った。5月の関東大学選手権に期待したい。

サッカー・関東大学リーグ

第8節終了で8位

2年次生が伸びる

▲ 高山薫⓫（経営2）がドリブルで持ち込む

4月5日に開幕した関東大学サッカーリーグ戦は、第8節まで終了し、専大は2勝3敗3分で8位に位置する。現在、低迷しているが、1部に昇格した中で専大イレブンは他のチームと遜色のない堂々としたプレーを見せている。源平貴久監督は「2年次生が伸びてきて貴重な戦力となっている。チームとしての力は十分1部に通用するので、結果を恐れずに前向きに試合に臨んでいきたい」と話してくれた。（佐山　竜太・経済2）

サラダリーグ

新戦力の育成を目的に地域や所属リーグにかかわらず試合を行うサラダリーグが5月3日から5日まで、國學院大体育館で行われ、専大は3勝3敗だった。新戦力の活躍を期待する。（新海）

少林寺拳法・関東学生

菅野・密本組が予選突破

5月4日、少林寺拳法関東学生大会が日本武道館で開催された。演武と運用法の2種目が行われ、女子2段以上の部で菅野賀陽（文3・帝京大学高）・密本紗世（法3・成田国際高）組が予選を突破し、本戦出場を果たしたが、惜しくも入賞はならなかった。

9月の全日本学生大会に向け「チームの目標は入賞。個人としては、最優秀賞をとること。精神面で引っ張るだけでなく、実績も残したい」と益満隆行主将（文4・神代高）。強豪ひしめく関東地区で、秋までにさらなる心・技・体の研鑽を目指す。（松本　かおり・文3）

部活拝見

▲ 日本一に向けて日々練習だ

準硬式野球部

「文武両道」大切に

一丸の堅実プレー

「自分たちにはずば抜けた選手はいない。だからグラウンドでは全員が大声を出し、背伸びをしない堅実なプレーを心掛けている」と林真吾主将（経営4・観音寺第一高）。他大学に比べると甲子園経験者が少ない、専用の野球場がないなど、決して恵まれた環境とは言えない中、「日本一」という目標に向けて頑張っている。全国の強豪を倒し、昨年は全日本大学選手権で3位。4月の関東地区大学選手権でも準優勝し、現在開催中の東都大学準硬式野球春季リーグ戦では4勝2敗と好調を維持している。

「コミュニケーションを取ることを大切にし、練習の前後に必ずミーティングをする。練習メニューは自分たちで話し合って考え、工夫している」と林主将。取材で訪れたのは河川敷にある目黒学院高のグラウンド。バッティング練習には狭いので、強いゴロを打つ意識を徹底したり、バント、ヒットエンドランなどケースを想定し、試合につながる内容を多く取り入れていた。これが強さの秘訣であり、結果を出している理由なのかもしれない。

また、『文武両道』をチームのモットーに掲げている。「野球だけでなく学校生活もしっかりやる。部員には教職課程を履修している者もいる。野球の指導者として母校に帰りたいなど、将来のことを考えている選手が多い」と林主将。練習は声が絶えず、試合ではハツラツとプレーする。そして何よりも選手からマネジャーまで全員が野球好きで真剣に取り組んでいると肌で感じた。（佐山）

相撲・選抜2大会

新チーム出足好調

4月29日に愛媛県で開催された全日本大学選抜相撲宇和島大会、5月3日の大分県での全日本大学選抜相撲宇佐大会の2大会で、専大は、団体でベスト8に進出した。

5日に福岡で行われた全国選抜大学・社会人対抗相撲九州大会では社会人に敗れたものの、新チームでの出足は好調だ。「先輩たちが抜けた穴は大きいが、今年はまとまりの良いチームだと思う。個人の成績は全く駄目なので、もっと一人ひとりの実力を伸ばしていきたい」と相坂卓主将は話した（経営4・三本木農高）。

今月18日に全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会、6月8日には春のメーンともいえる、国技館での東日本学生相撲選手権を控えている。（松本）